

★ ★ 那須高原劇場第二幕の始まりです ★ ★



4月1日の職員会議。先生方へお伝えした内容です。児童・保護者・職員。みんなのウェルビーイングのためにはどうしていくかという共有です。



令和6年度 職員会議 那須高原劇場第二幕に向けて

～目指すはみんなのウェルビーイング～

『幸福な子どもモデル(ありがとう・ありのままに・なんとかなる・やってみよう)』
『心の安全性』(話しやすさ・助け合い・挑戦・新奇歓迎)

【児童のウェルビーイング】「なんかね…学校が楽しいんだよ」

- ・『年度初めに WebQ への質問項目を必ず確認しよう。』この項目は具体的であり、学級経営の振り返りでもある。
- ・『児童の考えや思いをきちんと見取ろう。』教師の都合に合わせてはならない。
- ・『教師の児童を見取る枠を広げよう。』ダメな児童なんて一人もない。
- ・『時間をかけて、待ってみよう。』怒鳴りや威圧の指導は人権無視の最たるもの。絶対にやってはいけない。
- ・『体験や活動から学ばせよう。』チョークとトークにあふれた授業は退屈でしかない。
- ・『児童を褒めて、褒めて、褒めてあげよう。』失敗したとしても褒めるところを見つけて伝えてあげる。

【保護者のウェルビーイング】「なんかね…信頼できるんですよ」

- ・『児童間のトラブルはその日のうちに解決させよう』原因と対応をその日のうちに保護者に伝える。
- ・『トラブル等はどんな小さなことでも保護者に伝えておこう』そんなことまで！くらいがちょうどいい。
- ・『保護者の判断も大切にしよう』ケガについては、保護者に判断をゆだねる場合がある。
- ・『言葉を考えて保護者と話をしよう』ダメな保護者はいない。完ぺきな人間などいない。
- ・『保護者の言葉を真摯に受け止めよう』苦言等は学校の大切な PDCA 材料。マイナスに捉えない。
- ・『責任が先生方個人に及ばないように即答は避けよう』校長や教頭、教務主任、ブロック主任等に相談する。

【先生方のウェルビーイング】「なんかね…那須高原小学校、いいんだよ」

- ・『弱音はいつでも声に出してみよう』気持ちを出せることはとっても大切！
- ・『困ったときは声に出そう』声に出せばなんとかなる！ならないことはない！校長・教頭に任せろ！
- ・『笑顔を保てよう』笑顔がなくなったらつまらんよ。
- ・『ライフワークバランスを大切にしよう』仕事も大切だけど、僕らは金八先生じゃない。
- ・『おたがいさまの気持ちをもとう』年齢や経験年数、立場や分掌等関係ない。チームだ！
- ・『相手の話にしっかり耳を傾けよう』聞くことの大切さがあるから話せるのだ。

私は児童・保護者・先生方を全力で支えていく。ただし、全てうまくいくわけではない。そんなときは助けてほしい。校長としての椅子ではなく、人としてリーダーシップがとれるように精進します。那須高原劇場第二幕の幕開けだ！！

令和6年度も引き続き那須高原小学校の校長を拝命いたしました遠藤克朗(えんどうかつあき)と申します。昨年度は、地域の皆様方、保護者の皆様方の協力を得て、教職員一同、ワクワクした1年を過ごさせていただきました。心より感謝申し上げます。

さて那須高原小学校のリーダーとして、本年度も子供たちの思いをくみ取り、実践へとつなげていく教育活動を展開していきたいと考えております。その中心となるのは「ウェルビーイング」です。このウェルビーイングの考え方からすると『学校教育目標「思いやりのある子」「進んで学ぶ子」「たくましい子」』は目的を達成するための一つであることが言えます。本校学校教育の目的は児童の「ウェルビーイング」です。ウェルビーイングというと大きな枠になりますが、「なんかね…学校って楽しいんだよなあ」と思えるように教育活動等を展開していくことが肝要だと捉えています。また、ウェルビーイングは児童だけが味わっても足りません。私の中では、保護者の皆さんも、本校職員もウェルビーイングを感じてほしいのです。

「なんかね」は、確実ではないけど、すごくではないけど、いつもいつもではないけど、というニュアンスを含んでいます。「友達とけんかしたり、叱られたり…いやなこともあるよ。でも、なんかね…学校って楽しいんだよ」人が感じる柔らかな幸せを表現するとこんな感じではないでしょうか。

そんな学校になれるように、精鋭の先生方と共に令和6年度をつくり上げていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願いいたします。

